

## ～予防にも目を向けよう！将来のイクメン育成計画～

チーム AWAKE : 蔭山・吉池・安納・福井

家事や育児をだれがやっていると思いますか。現在母親が 10 割の家事育児を行っている家庭は、全体の約 50 パーセントもあります。こういった状況では、母親のストレスが増大し、離婚や児童虐待の危機が増す危険性があります。また、女性の社会進出の機会をも奪っています。子供の出産後も仕事を続けたいと多くの女性が思っているにも関わらず、母親に家事育児の負担が重くのしかかっているため、仕事を辞めなければならない現状が見て取れます。私たちは、母親への家事育児負担が様々なことへ悪影響を及ぼしている現状をどうにか改善したいと思いました。そこで、イクメン育成コンテストを提案します。

今男性の家事育児参加が求められています。母親に対するアンケートでは、男性も家事能力を高めて子育てに対する理解と協力が必要だという意見に多くの賛同が集まっていました。また夫が育児に関わっていればいるほど妻から頼りにされるという研究結果があります。このことより、夫が家事育児を手伝えれば妻のストレスが和らげられると考えました。

現在国は「少子化対策基本法」を制定して男性の働き方の見直しや男性の育児休暇取得を推進しています。またイクメンを増やすために「イクメンプロジェクト」行っており、子供を持っている男性に対して講演会などを行っています。ここで私たちは、国の活動には「予防」という観点が欠けていることに気づきました。そこで予防の観点で対策を行うことにしました。

男性の未婚率を調べたところ、20～24 歳は 93.4%、25～29 歳は 71.8%でした。より多くの男性を対象とするために 24 歳以下が妥当だと考えました。次に結婚までの時間のギャップを考えました。イクメン教育を受けてから、実際の結婚生活までの期間はなるべく短いほうがよいと考え、対象者を専門学校卒の男性、短大・高専卒の男性、大学以上卒の男性に絞りました。その中でも、初めての試みなので男子大学生を対象を絞り、予防の観点から彼らにイクメン育成コンテストを行うことにしました。

イクメン育成コンテストまでの流れは、9 月 10 月に宣伝を行い、同時に 10 月に参加者を募集します。そして 11 月にコンテストを開催します。宣伝は、東京の各大学の新聞部や広告研究会などに依頼し、子供に興味のない人でも気軽に参加できることをアピールしてもらいます。大会内容は、第一部に参加者自身の自己紹介と自己アピールをしてもらいます。その時のテーマは「父親になった時の意気込み」です。午後から始まる第二部では、育児に関するクイズと家事に関するクイズに挑戦してもらいます。テーマは掃除や料理、洗濯などです。

この取り組みを行うことによって、男子大学生が育児に関心を持つ機会が増え、将来のイクメンが増えることを期待しています。